

令和4年度 江差高等看護学院学校関係者評価会議議事録（概要）

日時 令和5年1月27日（金）15:00～16:30

場所 江差高等看護学院2階調理実習室

1 学院長挨拶

本学院で一昨年発生しましたハラスメント問題につきましては、地域の皆様、関係者の皆様に多大なるご迷惑、ご心配をおかけしました。この場をお借りしまして、お詫びを申し上げます。

学校評価は、学校教育法に基づきまして、本学院でも、平成30年から取り組んできたところですが、ハラスメント問題の背景として、閉鎖的な学院運営が指摘されておりましたことから、このたび規程を大幅に見直しまして、学院として積極的に説明責任を果たすこと、また、関係者の理解と参画を得て地域との連携協力による特色ある学院づくりを進めることなどを新たな目的としました。

関係者会議につきましても、目的を踏まえ、学識経験者、行政関係者や保護者などに加えまして、学生代表や地域住民の方々にも、新たに構成員に加わっていただいたところです。

今回は規程改正後初めての開催ということで、これまで学院で取り組んできたハラスメント再発防止対策の進捗状況や、学院の現状についてご報告をする予定です。

学院の近況といたしましては、昨年4月以降ハラスメントの有無や学院生活の満足度などについて、定期的に学生にアンケートを実施し、12月には初めてハラスメントがないという結果となりました。さらには、学生の満足度や自己肯定感も向上し、学生が明るく元気に学んでいる様子が確認できて、学院が正常化しつつあることを感じているところです。

とはいえ、ようやくスタートラインに立ったところですので、学院としましては、今回のピンチをチャンスに変えて、しっかりと気を引き締めて、学院の信頼回復と、よりよい学院

運営、そして何より、学生が安心して学べる環境づくりに一層努めていきたいと考えております。

2 構成員紹介

学識経験者（座長）、医療関係者（道立江差病院）、保健関係者（江差町役場）、福祉関係者（乙部町役場）、非常勤講師、保護者、学生自治会長、学生寮寮長、学院同窓会、高校関係者（江差高校）、地域住民代表（NPO 法人）、その他（行政関係者 檜山町村会）
計 12 名（出席者は学院同窓会を除く 11 名）

3 議事

（1）ハラスメント再発防止対策の取組状況

事務局より資料 1 を用いて説明

取組の目的は、ハラスメントを許さない機運を醸成し、学生が安全に安心して看護を学べる学習環境を整備する。

目標は教員から学生へのハラスメントが起こらない。学生の学院生活に対する満足度が向上する。学生の自己肯定感が向上し、モチベーションを持って学習できる。

具体策としては、①学生対応、②保護者対応、③実務的な通報窓口、④教員の人材育成、⑤学生が学び合う体制、⑥地域との連携強化、⑦自己評価機能の強化に取り組む、⑧学生確保、⑨職員の職場環境づくりの 9 点。

①学生対応

4 月に学院長から全学生にハラスメント再発防止対策を説明し、相談窓口や目安箱の活用方法を周知。また学生面談では、学生の背景を踏まえた支援体制とし、個別の対応方針や結果の共有に努め、担任のホームルームや各種オリエンテーションの充実など、ガイダンス機能の強化にも努めている。あわせて、学習支援や生活支援に向けて、学内で学習できる時間

を17時から19時に延長したり、課外活動しやすい環境を整えてきた。

また、国家試験直前となり、学生より、土日も学院で学習したいという要望があったため、今週末の週末は学院を開放することとしている。

②保護者対応

教員と保護者との情報共有、信頼関係の構築に向け、入学生保護者向けの懇談会を実施。夏休みと冬休みの2回、リモートでの保護者面談を実施。あわせて、学院通信で近況を報告し、保護者からの問い合わせについても速やかな対応を心がけている。

③実効的な通報窓口

ハラスメントの相談通報窓口として、学内2名、学外2名の相談員を選定し、学生に説明するとともに、学生掲示板で常時周知し、相談があった場合は、道の指針に沿い、適切に対応できるようにしている。

ハラスメント相談に限らず、どのような相談でも受け付ける目安箱を設置し対応。4月以降4件の投書があり、内容としては、寮生活や就職のこと、学院内の衛生環境など、日頃の不満や要望があげられた。

改善できることは改善し、出来ないことは学生の気持ちを丁寧に聞きながら、現状を説明するなどして対応している。あわせて、定期的なハラスメント調査を実施し、ハラスメントの早期把握、対応に努め、ハラスメントに関する研修も実施している。

④教員の人材育成体制

学内研修を定例で開催し、4月以降11回実施している。道立高看合同研修は12月に1回実施。

外部の研修にも積極的に職員を派遣し、専門職として自己研鑽の重要性を伝え、主体的な研修参加を勧めるなど、計画的な教員の資質向上に努めているところ。

⑤学生同士が学び合う体制

本会議の構成員でもいらっしゃる非常勤講師からの提案をいただく「ほめ活」をプロジェクト化し、取り組みを進めている。

ほめ活の目的は、学生と教職員がお互いの良いところを認めたり、ほめる取り組みを意識的に実施し、相互のコミュニケーションの活性化や自己肯定感の向上を図る。年7回の予定で取り組んでいる。学生からは自己肯定感があがる、他の学生や教員の意外な面がわかって楽しいなどの声も聞かれ、楽しそうに会話している姿も見られる。

12月の開学記念日には、ほめ活特別編として、学院のアピールポイントを募集。たくさんメッセージが集まった。（参考資料5）

当学院には、学生自治会と寮自治会の2つの自治会がある。近年、学生数の減少などにより自治会役員や掃除当番など役割負担が増しているという意見が聞かれている。また、ボランティア活動や他機関との連携については、特にコロナ禍以降、機会が少なくなり、経験の少ない学生が多く、教職員の積極的な介入も必要と考えている。

特に、本学院は8割以上が寮生活をしているので、生活支援として、寮自治会のサポートは重要と考えており、日常の困りごとや要望などを聞き取り、より快適な寮生活を目指して改善に努めている。

⑥地域との連携

外部に開かれた学院運営を目指した取り組みとして、江差高看通信を年4回発行。今年度からは、ホームページにも掲載している。（参考資料3）学院行事や各学年の学習状況などを掲載し、道立江差病院や管内各町、振興局や高校などにも送付している。12月発行の第7号は、講堂のワクチン接種会場にも置いていただき、多くの町民の方々にも見ていただくことができた。

学院ホームページには、学院行事や学生の状況などを、積極的に発信し、アクセス件数は月1万件前後で、他の道立高看よりかなり多い状況。

地域イベントやボランティア活動については、役場、社会福祉協議会、江差高校などから情報をいただき、自治会を通じて学生の参加を募っている。町づくりの会合であるネクストイノベーションや海浜清掃、かもめ島まつり、高校の体育祭などに職員、学生が参加。昨年の12月には、自治会の企画で江差病院の入院患者様にクリスマスカードをお届けした。

先日、クリスマスカードを受け取った患者様のご家族からお礼の手紙をいただき、学生の思いが伝わったと感じた。

また、地域貢献の一環で、図書室の一般開放も始めた。これまでは実習施設等関係者のみの利用としていたが、一般の方についてもご利用いただけるよう、チラシをワクチン会場や江差町役場などに置かせていただいている。（参考資料6）

先日、学生の演習に地域の方に模擬患者としてご協力いただいた。最近の学生は子どもや高齢者と関わる機会がほとんど無かったり、学生数が少ないため学内の場面設定だけでは、十分な演習効果が得られない状況があり、今回初めて実施したが、病院実習に向けて、ほどよい緊張感を持って、実践的な演習を行うことができた。

⑦自己評価機能の強化

外部に開かれた学院運営に向け、学校評価の体制を見直し、自己点検、自己評価が教育課程や学院運営の改善につながるよう取り組んでいる。

⑧学生確保対策

7月にオープンキャンパスを企画し、学生による模擬演習、オリジナルグッズの作成など、様々な準備などを行ってきたが、新型コロナの影響で中止。その後、希望者には学院見学などで個別に対応してきた。

在学生の満足度が向上すると、学院のことが口コミで広がり、結果的に学生確保につながることを期待し、快適な学院生活、寮生活のサポートに努めている。

⑨教職員の職場環境

人材育成と並んで教員の確保が重要。道立高看では講師の欠員が続いており、採用要件を大幅に緩和し確保に努めているところ。引き続き、職員が生き生きと働けるようマネジメントを行っていきたいと考えている。

取組の評価

長期的には入学者数、受験者数、入学辞退率、国家試験合格率、圏域内の就職者数、割合、短期的には、学生の満足度、自己肯定感、学院内でのハラスメントのほか、授業評価を評価指標としている。

学生アンケート（5月から12月までの結果 参考資料4）

学院生活は楽しい、まあまあ楽しいと回答した学生は、5月に65%、12月には71%に増えた。自分自身に満足しているか、自分が役に立たないと感じるか、今の自分が好きかなど、自己肯定感に関する質問についても、いずれもポジティブな回答が増加している。

ハラスメントについては、5月、7月のアンケートで、私生活に干渉するようなことを言われたりされた、容姿、年齢、交友関係等に関して執拗に聞かれたり話題にされた、の項目について「たまにある」がそれぞれ1件あり、比較的軽微な被害だったので我慢したとの回答であった。会議等を通じ、職員間で結果を共有し、個の権限の侵害を中心としたハラスメントの研修を実施し、ハラスメントが起きる背景や、適切な指導について確認を行った。

12月のアンケートでは、すべての項目でハラスメントは確認されなかった。相談員の周知については、12月には回答者全員が知っているとの回答。

今後、学生アンケートや授業評価の結果なども踏まえ、改めて自己点検を行い、来年度の

会議で報告したい。

(質問・意見)

(学生自治会長)

以前は、看護師になりたくないと思い、指導してもらえないなど、先生達の好き嫌いが激しかった。学校を辞めようかと思っていたが、学校が変わり、勉強しやすい環境や、先生方が学生に真摯に向き合い対応してくれる。今の学校は、すごく看護師になりたいなあと思えるようになったので、本当に良い方向に変わったと思う。学生アンケートの結果についても妥当と思う。

(学生寮寮長)

入学した時は、パワハラニュースを聞いて、同級生達で大丈夫なのかと不安がたくさんあった。どんどん改善されて、今では不安なことや悩みなども先生が聞いてくれ、色々相談に乗ってくれて、すごく勉強しやすい。生活についても、寮の部屋が寒いなどあったが、今年工事してもらって、すごく過ごしやすい環境で学習ができています。

(保護者)

本人に学校生活のことを聞くと、イベント、例えば地域のボランティアやバーベキューがあったり、学業以外のそのようなところも楽しいと聞いている。交流会やイベントなど、学生生活を楽しめるような工夫があるのかなと、感じている。

(地域住民)

資料3のボランティア活動の報告の中のネクストイノベーション、ここには私も参加している。学院から学生も参加していて、それで、顔見知りになって、そのつながりで、私たちが模擬患者になり、1年生の演習に協力させていただき、パジャマに着替えてベッドに寝て、病人になって、貴重な体験をした。学生は、いつもは学生同士で行っていて、高齢者の対応

が少ないようで、私たちに声がかかり、喜んで参加しました。

ちゃんと声かけもして、体温を測ってくれたり血圧を測ってくれたり、簡単な演習だったが、お互い初対面でかなり緊張した様子だった。私たちから見ると孫みたいな存在で、可愛らしく、とてもいい雰囲気、本当に頑張っていて欲しいと思った。もっとたくさんの子が入学し、このように育っていったらと思い、本当に心から応援したいと思った。

今まで学院があることは知っていたが、あまり関心も無かったのが、今になると恥ずかしい感じ。もっと町民も関心を持ちながら見守って行ければと思う。もしこの程度で協力できるのであれば、これからも協力していきたい。

先生と学生の関係についても、とても温かくて、質問しながらやっていて、いい感じだった。

(高校関係者)

資料1のスライド14にありますが、地域行事への参加で、江差高校体育祭救護という写真が載っている。江差高校はここからすぐで、本日も歩いて来たがすぐ隣にある。本校も少子化のあおりを受け、だんだんと教職員の数が少なくなっている現状がある。

毎年7月に恒例行事として体育祭(全校行事)があるが、その際、救護関係のお手伝いを思い切って頼んで見たら、快く引き受けていただいた。

当日は、先生と生徒さん2名に来ていただき、盤石な体制で体育祭を終えることができた。

本当に近いので、お互いにもう少し連携し合いながら、地域の子供たちを支えるような、いろんなことができれば、より良くなるかと考えている。

(医療関係者)

毎年クリスマスに、びっくりするくらい丁寧で、1枚ずつとても綺麗なカードをいただく。

去年はコロナ禍で、学生が病棟に入れない状況で看護師から手渡しする形を取ったが、今年

は学生から渡して欲しいと思い、病棟の師長を通じて直接お渡しする機会を設けてもらった。皆さんすごく喜んでいて、この書面（お礼の手紙の方）は、看護師もこのカードをご家族にお見せしたいという思いでいた（ご家族のコートのポケットに入れた）と思う。ご家族の方からこのように感謝の言葉をいただくのは、私たち看護師にとっても、やって良かったなあと思う瞬間であり、学生にもその思いが伝われば喜ばしいことだと思う。

（保健関係者）

学院があることも学生がいることももちろん知っているし、町の方にも実習に来られて、私自身、直接学生と接することはほぼ無いが、非常に真面目に取り組んでいると感じていた。

今の体制になる前の学生からは、「先生たちが保健師さんのように優しくったら良いのに」というような声を実は聞いたことがあった。私も保健師で、看護学校が厳しいことは体験していたが、実際、その後ハラスメント問題があっ、もっと大変な思いをしたと思った。

図書館の開放などは、資料にも添付されているが、今、学院が地域に出て行こうということを感じている。また、通信をできるだけたくさんの方に見ていただきたいということで、先ほど説明にもあったが、コロナのワクチン会場（学院講堂）でこれを配ったが、健康観察の時間に熱心に皆さん読んでいて、学院が変わって来ていることを実感しているのではないかと思った。これからもっと地域に出て行くと思うが、私どももできることがあれば先生達、学生達とも連携しながら、協力して行きたい。

（福祉関係者）

2年生の在宅看護論の講義で学院にお邪魔している。あわせて、3年生の地域在宅実習と1年生の地域を知る実習を引き受けている。看護学校に入ったばかりの学生が地域にいらして、一緒に歩いた。講師で来ている時には、地元の学生ではなく、札幌方面など遠くから来ている学生が結構いる中で、ここ（檜山）の魅力は物では無く、自然や人との繋がりなどで、

3年間でそのようなことを感じて欲しいと思っている。今回色々な報告を受け、少しずつその取り組みが進んで来て、学生の発言にもあったように、少しずつ満足度が上がって来ていると感じた。

1年生の実習でも、都会から来た学生が私どもの地域を回って、農家や漁協の皆さん方からお話をしていただくと、地域の魅力を学生が知るとともに、地域の方も学生から力をもらって「こういう学生さんが地域に来たんだね」というような声をいただいているので、相互に知っていただく意味で、よかったなと思った。1年生の実習は、継続していただきたい。

(その他(行政関係者))

今、いろんな話を聞かせていただいた。このような取組を、正直、私も全く存じてなく、素晴らしい取組と感じている。今後、より良くなっていくと思う。とはいえ、課題と問題は多々あるかと思う。看護師は、素晴らしい職業、また、激務。特に今、保健福祉は大変な業務と私も思う。特に檜山は看護師不足、医療従事者が不足しており、我々は医療の充実、医療従事者の確保を北海道にお願いしたり、あちこちに頼んできた。そうした中で、やはり学生が楽しく、将来を目指して一生懸命働けるような学生環境を作っていくということが非常に重要。そのような意味では、今まさしく取り組んでいるということで、今後も非常に期待が持てる。

(非常勤講師)

今いろいろお話いただいたが、私も講師として長く、前体制の苦労があったことは承知していて、学生から「先生方が厳しい」と言う話を聞いたことがある。以前は、私自身が職員室に入りづらい時期があり、先生方が、本当に苦労されていて大変だろうなど、学生、先生方ともに、同じように苦労して、なかなかうまく改善しなかったのを見てきた。現状は、とても職員が明るく、挨拶をしてくれる学生がすごく増えた。これは明らかに違う。私は態度

を変えてないが、地域の方や先生方であったり、色々な方の協力があるということ、在校生の皆さんが感じ取れてると良いなと思う。

また、現状がベストということでもなく、さらに色々なことに取り組んで、学生の要望や、職員の働き方とか、色々なものがマッチしていけるように進んで行くことを期待している。

そのようなことがハラスメントや、色々なトラブルなどの解決に繋がってくると思う。

(2) 江差高等看護学院の現状と課題

事務局より資料2を用いて説明

学院の概要

道立看護学院は、旭川、紋別、江差と道内3カ所あり、北海道の地域医療を担う看護職員の養成を目的として設立され、地域に根ざした看護を実践できる人材を育成し、道内でも看護職員の充足率が低い地域の医療・福祉施設等で必要とする質の高い看護職員を供給することを役割としている。1学年定員は40名、就業年限は3年となっている。

学院が抱える課題

課題の一つに、学生確保があり、本日は主に学生確保や就職の状況について説明。

道内の看護学校の状況

高校を卒業したあと看護師になるために進学する学校として、大きく分けて、大学、3年課程の専門学校、准看護師になるための専門学校がある。

養成定員と高校の卒業者数のグラフ

高校の卒業者数は少子化を背景に減少の一途をたどっており、平成22年の4万7千人から令和3年の3万9千人まで、ここ10年で約8千人程度減少。

定員に対する入学者の割合を充足率として比較したグラフ

江差高看と同じ3年課程の専門学校はオレンジのグラフで90%程度、また、准看護師課

程は8割程度まで減少している。一方、黒の点線で示す大学は100%以上と定員を超えて推移している状況で、大学指向が高まっている。

看護学校の所在地

構成比が最も多いのは道央。道央が63.9%、札幌だけでも42.6%を占めて、学校が札幌圏に集中している。定員充足率も、道央は96.2%、札幌は98.9%と100%に近い反面、オホーツク、釧路・根室、道南地域は9割を切っている。

看護養成校は全道的に少子化を背景にして定員充足率が低下している。一方、大学や札幌圏の学校は定員充足率が高い状況があり、学生の大学指向、大都市指向が高まっている。

道南圏域にある看護学校の状況

函館市内には4つの学校があり江差高看を含め5校、あわせて230人の定員がある。

函館医師会の看護学校は平成31年に准看護師課程から看護師課程になり、看護師養成校としては1校、40人が増えた。

江差高看の入学者数・受験者数の状況

受験者数、入学者数はいずれも減少傾向、定員充足率はここ4年間では50%を切り、全道平均を大幅に下回っている。

平成31年に受験者数が大幅に減少しているが、函館市内に新設校が開校したことが影響したと思われる。また、令和3年のハラスメント問題翌年も受験者数は減少。

入学者の出身高校の地域別

道南が、南渡島（函館地域を中心）が129人、北渡島檜山（八雲を中心）が107人、南檜山（江差を中心）が83人で、あわせて319人47.5%が道南地域。

道央が、札幌が204人、札幌以外が111人で、あわせて315人46.9%。

道南だけの学生ではなく、道南、道央が約半数ずつという構成比になっている。一番多い

のは札幌市内で、札幌の学生の併願先となっている傾向がある。

学生確保についてのこれまでの取組

オープンキャンパスや学校見学、学院案内の更新・配布、高校訪問、ホームページの活用など学院PRの強化を行ってきた。あわせて入試制度の改正も取り組んできた。

高校の推薦エリアは、設立当初は江差、八雲地域を重点ということで設定していたが、平成22年には函館方面、倶知安小樽方面を追加。さらに平成30年に胆振（室蘭、苫小牧など）を追加した。

推薦の要件としましては、卒業後、推薦地域で看護師として働く意思があることなど。

さらに、入試科目も、国語から古文を除外したり、理科を段階的に廃止するなどしている。これは、函館市内の学校とできるだけ同じ科目にすることで、併願受験しやすいよう配慮した取組。

また、社会人入試を平成26年から開始。一般Ⅱ期試験（定員に満たない場合の追加募集）を令和2年から開始。同じく令和2年に旭川高看との併願制度開始（旭川高看が不合格で、本人が希望し当学院の募集定員に空きがあり、合格基準を上回る場合には、試験を免除できるという制度）。それぞれ制度開始以降、数名の受験生・入学者がいる。

学生数の減少による影響

看護学院として非常に多いのが、グループでのディスカッションやロールプレイ、それから先日模擬患者として協力していただき模擬体験や演習。そういう演習という学習形態では、通常4～8人程度のグループで、メンバー、役割、患者役、看護師役、観察役などを入れ替えて、3～4つの複数のグループで学習を積み重ねていかないと十分な教育効果は得られないと言われている。

今年度の入学生は8名で過去最も少ない人数。一人一人の学生に丁寧な個別指導ができ、

学生からも一定程度は評価を得て、学生が少ない分丁寧に指導してもらえると好評である反面、演習などでは学習効果が深まらないという課題もある。

学院としては、学生確保はもちろん、少ない学生でいかに教育効果をあげることができるかという工夫が必要になってきており、模擬患者を交えた演習もその取組みの一環としている。

入学後の状況

平成10年から令和4年までに入学した全672人の学生の内訳。卒業した学生は497人74%、退学した学生は137人20%、在学中が38人6%となっている。

全道の3年課程の卒業割合というのは90%程度なので、比較すると当学院は退学者の割合が多い状況。退学理由は様々で、原因をはっきりと分析することはできないが、看護を志望した学生を3年で卒業させるためにどうあるべきかという視点で、今後の体制整備が必要。

また、国家試験にストレートで合格したのは458人92%。全国の合格率が例年90%程度であり、それよりは高いものの不合格となる学生もおり、一人でも多くの看護師を効率的に輩出するために国家試験対策も強化する必要があると考えている。

就職の状況

年度によりばらつきはあるが、年間20人前後が卒業・就職し、そのうち道南に就職するのは10人前後、さらに江差地域の南檜山に就職するのは少ない年では0人、多い年で5人となっている。南檜山の就職先としては、江差病院や奥尻国保病院などで、これらの学生はいずれも修学資金の貸付を受けていた。

就職した学生（地域別）

道南に就職したのは南渡島65人、北渡島檜山90人、南檜山72人、あわせて227人49.5%と約半数。また、道央が札幌139人、札幌以外57人、あわせて196人42.

7%と、出身校の傾向と同様、札幌市内への就職が139人と最も多くなっている状況。

自治体などの修学資金制度（参考）

複数の自治体の修学資金制度を併用することも可能。

例）江差病院に就職する場合

北海道の一般と特別、江差町で実施している奨学金、併せて月10万円程度の貸付を受けることも可能。5年勤務することで返還免除となる。

ここに掲載しているのは一部であるが、後志地域や札幌市内の病院、道内各地、道外からも奨学金の案内は学院に届く。

さらに、学生支援機構の学資支給制度や、授業料・入学金の減免措置、返還不要の給付型奨学金など、高等教育の無償化制度も2年前から始まった。

就職の傾向

修学資金の返還免除要件施設への就職のほか、出身地域や都市部へ就職する傾向がある。札幌出身の学生で修学資金を活用して江差に就職する学生がいる一方、地元の学生でも函館や札幌に就職する学生もいる。ここ数年は、自治体や病院の修学資金も多様化しており、就職を決めた時点で遡り支給という形の病院や、高等教育無償化制度による給付型奨学金の開始など、学生の選択の幅はどんどん広がってきている。

また、学生自身も色々勉強して可能性を考えたいとの理由などで修学資金を当初から活用せず、2年生、3年生になってから検討する場合も増えてきているように思う。需給推計（北海道で推計している看護職員の必要数）では、地方だけではなくて札幌など人口が集中する地域でも看護職は不足すると言われており、各施設、様々な看護師確保策を講じている状況。

学生の就職先の考え方

実習での経験が大きく影響していると感じている。当学院の主な実習病院は、函館市内が国立と新都市病院とで、約半数近くが函館市内で行っている。次に多いのが八雲病院。江差病院は約2割。江差病院は実習以外に、医師や看護師の方など多くの職員に講義をいただいている。道立の看護学院としてできるだけ多くの学生を送りたいと考えており、江差病院の特色や魅力を知る機会をもう少し増やしていけたら良いと考えている。

道が示している道立高看の方向性

江差高看については、今後5年程度は養成を続ける必要があること、今後の地域における若年人口や入学者の推移を踏まえ将来的なあり方を検討していくとなっている。

この現状を踏まえて、当面の学院運営の目的などを整理。

今後の学院運営の目的としては、教育効果の維持に必要な学生数の確保、修業年限3年間での卒業、看護師国家試験の合格、看護師が不足する地域への就職、この4点をあげ、それぞれの具体的な目標として、入学者数、最低でも12人の確保。これは先ほど教育の質の維持に必要な最低限の人数として4人グループが3つできる人数。また、受験者数の確保として、過去の入試の状況から概ね12人を確保するためには必要な受験者数として36人程度。卒業割合は、まずは全道平均よりも下回っているということで、全道平均以上を目標。国家試験合格率は、全国平均以上。南檜山圏域への就職は3人以上。これは北海道が示している需給推計で南檜山地域で不足が見込まれる人数を根拠に算出。

今後の対策 学院のPR

これまでも実施してきているが、オープンキャンパスや高校訪問、ホームページの活用などでPRを強化していきたい。

また多様な入試形態、社会人入試やII期試験は全ての学校で行っている訳ではないので、こうしたことをPRしていく。さらに道立である強み、それから江差地域にある社会資源を

十分活かして魅力あるカリキュラム作りを進めて行きたい。また、少人数教育をメリット（学生からも人数が少ない分、指導が受けやすいと言った声）としてPRできるようにして行きたいと考えている。一人一人の学生にあわせた丁寧な指導、国家試験対策の強化などによる修業年限での卒業・国家試験合格、実習やインターンシップの活用、就職セミナーなどの企画、修学資金のPRなどを通じた就職の支援。教員の人材確保などのほか、教員が指導に専念できるような環境づくりも必要だと考えており、こういったことを今後の目的として行きたい。

いずれにしても学生確保については非常に厳しい状況で、学院としても考えられることは色々取り組んでいるが、皆さまからもご意見、ご助言ありましたら、ぜひいただきたい。

(意見等)

(高校関係者)

確かに、高校生を見ていると、大学指向は強まっているのと思うし、高校でも、大学進学を勧める傾向が、年々強くなってるというのが、正直なところ。ただ経済状況など、大学に進学することに対して抵抗があったり、どちらにしようかと迷っている家庭もあると思う。やはり経済的な部分（学費、生活費も含めて）、勉強に集中できる場所、この辺を散歩することもあるが、すてきな寮もあり、自然もあり、本当に素晴らしい環境の中で、色々な地域文化の中で培った人の中で勉強できるという良さがある。そのようなものをどんどんPRしていくことが大事なことでないかと思う。

(学生自治会長)

パワハラニュースが大きくなり、身近な高校生で看護師になりたいと言っている、「江差はちょっと」、「江差はやめておく」という子も多いと思う。実際パワハラが無くなったというのが、まだ高校生の耳には届いていなくて、「江差の学校は大丈夫か」というの

広がっていると思うので、今の江差の取組などを、実際に自分たち学生から言うのも高校生の耳に届くと思う。学生からも変わったとPRできれば良いと思う。

(学生寮寮長)

今、在学している私たちが、母校の後輩に、「江差高看パワハラ無くなって良い学校だ」と説明して行けば、他の高校にも広がり、高校生も増えて行くのではと思う。

(非常勤講師)

私は、大学の非常勤の仕事もしているが、大学も学生確保は大変。成績優秀者の入学時の助成であったり、入学料や授業料が少し減免になったりなど、そのような仕組みはあるのか。入学時にそのようなのがあれば良いのではないか。

(学院長)

現状ではそのような制度はない。ただ推薦は高校の評定が一定程度以上というのが要件になっており、入試の段階では優遇される。

(非常勤講師)

以前、札幌の高校で、学生がT i k T o kで学校の状況を発信し、入学者数がかなり増加したとの話が全国のテレビでやっていた。情報発信の仕方がさらにあると良いと思う。

終了